

平成 24 年度

財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	11

事業計画書

平成24年度財団法人いわき市教育文化事業団事業計画について

平成24年度は、福島県いわき海浜自然の家の指定管理者受託など安定経営に向けた運営改善計画の取り組みが一定の成果を見たことや東日本大震災の復興などに伴う埋蔵文化財発掘調査事業量の大幅増などにより、黒字予算でのスタートとなりました。

文化財部門では、市内の一般開発に伴う調査事業のほか、震災復興関係の高台移転などに伴う試掘調査および本発掘調査が計画されています。また、昨年度に引き続き会津の下郷町および県南の矢祭町などの市外地調査を実施してまいります。復興関係事業の調査は、関係機関と密に連携しながら実施してまいります。

施設部門では、震災発生後いわき市アンモナイトセンターでの体験発掘の中止およびいわき市生涯学習プラザでの限定開館の措置を講じていましたが、本年度から指定管理者受託7施設すべてについて通常どおりの管理運営にあたるとともに、利用者へのサービスはもちろんのこと質の高い専門性を提供し、「市民に愛され親しまれる施設づくり」をさらに推進してまいります。また、施設が復興のために何ができるかを常に考えながら事業を展開してまいります。これら本年度業務に対応するため、両部門ともに適正な職員配置などの体制の整備と充実を図りました。

このほか、出版事業における報告書の刊行、啓発広報事業における学校や公民館などでの文化財の啓発にかかる展示会や遺跡の現地説明会の開催、そして、出前講座の開催を通して、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、普及活用事業では公民館などへの有償出前講座を積極的に開催し、収益を図ってまいります。また、「あぶくま発見の旅サポート」や「福島県博物館連絡協議会」など、関係機関や地域との連携をさらに深めてまいります。

公益財団法人への認定に向け、移行事務を推進させてまいります。

1 文化財部門

(1) 基本方針

本年度事業は、東日本大地震からの復興事業、久之浜バイパス事業、市道改良事業、泉第三土地区画整理事業に関連する事業が見込まれ、発掘調査規模・件数とも前年度に比して大幅に拡大され、事業の内訳は、継続事業8件、新規事業8件です。事業規模は、300,757千円を予定しています。

これらの事業を実施するに当たっては、円滑に本発掘調査を進め、安全な作業環境の確保と事故防止に努めます。

(2) 事業計画

ア 試掘調査事業 2件(継続1件、新規1件)

試掘調査は、本発掘調査の是非や費用積算のために調査するものです。一般開発行為が発生した場合に、市の指示で試掘調査を行う市内試掘調査1件と震災復興事業関係の試掘調査1件を予定しています。

イ 本調査事業 7件(継続3件、新規4件)

継続事業は、下郷町埋蔵文化財発掘調査事業の小平城跡、薄磯餓鬼堂地区復旧治山事業の餓鬼堂横穴群、泉第三土地区画整理事業の御前田B遺跡。

新規事業は、久之浜バイパス事業関係静遺跡、震災復興事業関係小原遺跡、市道改良事業関係の磐崎中学校遺跡、水品遺跡を予定しています。

ウ 整理・報告書作成事業 7件(継続4件、新規3件)

継続事業は、矢祭町の前平遺跡。市内で発掘調査が行われた出土品整理事業、泉第三土地区画事業の神力前B遺跡・泉町C遺跡を予定しています。

新規事業は、市道改良事業による大場D遺跡。大浦小学校体育館建設の古川遺跡、薄磯餓鬼堂地区復旧治山事業の餓鬼堂横穴群を予定しています。

エ 遺跡説明会等の開催

本発掘調査事業を予定する遺跡の発掘調査の成果を市民に公開いたします。

2 施設部門

(1) 基本方針

いわき市アンモナイトセンター、いわき市考古資料館、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市暮らしの伝承郷、いわき市草野心平生家、いわき市生涯学習プラザ、福島県いわき海浜自然の家の7施設について、指定管理者として施設の管理運営にあたってまいります。

利用者への「安全・安心の確保と提供」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」を実践するとともに、市民ニーズを的確に捉えた事業の展開とそれらに対する自己評価を常に行いながら、「市民に親しまれ愛される施設づくり」を推進してまいります。また、各施設におけるボランティアとの協働をさらに深めるとともに、各種研修を開催し、資質の向上を図ってまいります。

特に本年は、各施設ともに開催事業を通し、震災一年を経過したいわき市民に

「知る、学ぶ、体験する」はもちろんのこと、楽しみと喜び、そして心の癒しの場を提供してまいります。

(2) 事業計画

ア いわき市アンモナイトセンター

一般体験発掘事業は、個人や家族を対象とし毎週土曜日・日曜日（第3日曜日を除く）および、5月の連休や8月のお盆休み秋の連休に実施に向け取り組んでまいります。

また特別体験発掘として、学校などの団体を対象とした発掘を一般体験発掘日・第3日曜日及び休館日以外の平日に実施を予定します。

親子発掘教室は、毎月第3日曜日に、親子を対象とした化石発掘教室を開催します。家族の絆を深めながら、化石発掘の方法や楽しさを学びます。

企画展は、小・中学校の夏休みには、「私の化石宝物」を、冬休みには「化石発掘を学ぶ」をそれぞれテーマとして開催し、化石への理解を深め、親しみがわくよう展示・解説します。

公開シンポジウムは、全国に誇れる化石産出地を地元小中学生はじめ一般市民に広く理解を広めることを目的に開催します。内容は、佐藤たまき氏による「化石と私」を予定しています。

イ いわき市考古資料館

企画展およびミニ企画展を4回開催します。第1回企画展「はにわの世界」は、近年の埴輪研究の進展を踏まえ、いわき市内から出土した多くの埴輪を集成・展示し、いわきの埴輪の特性について考えていきます。第2回企画展「平成23年度発掘速報展」は、平成23年度に実施した発掘調査、試掘調査及び整理・報告書作成の成果をいち早く公開・展示するものです。第3回企画展「写真で綴るいわきの指定文化財」は、いわき市内の国・県・市指定文化財の259件のうち、無形文化財・有形民俗文化財・無形民俗文化財に焦点をあて、重厚ないわきの歴史に触れていただきます。各企画展ともに、より内容を理解いただくために講演会、展示解説会、見学会、遺跡報告会などをあわせて開催します。

講座は、4講座を開催します。国史跡中田横穴の一般公開に合わせた「中田横穴青空講座」、夏休みの児童を対象とした「自由研究に挑戦しよう!」、「写真で綴るいわきの文化財」にあわせた「指定文化財見学会」、質の高いボランティアを養成するための「ボランティア養成講座」などです。

体験学習会は、「GW体験学習会」「夏休み体験学習会」「古代まつり」のほか、「勾玉づくり体験会」を夏・冬休みにあわせて16回開催します。

学校などからの要請により先方へ出向いて開催する出前講座、歴史に関する問い合わせや資料の貸出しなどのレファレンスなどについても積極的に対応してまいります。

また、緊急雇用創出事業として、「石炭化石館にある収蔵化石資料の整理登録業務」を行います。

ウ いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、企画展を、春に「草野心平の愛した動物たち」、夏に「若山牧水展」、秋に「坂本遼展」の計3回開催し、その企画展に関連する講演会などの催しを行います。また、スポット展示として、「吉野せい」「三野混沌と猪狩満直」「草野天平」、さらに地域ゆかりの人物の紹介展として「関寛斎」など、計6回を開催します。

春の企画展「草野心平の愛した動物たち」では、作品のモチーフとしてのみならず、実生活でも犬、猫、鳥、魚といった動物を愛し、生活を共にした草野心平と動物たちとのかかわりをもとに、その独特な共生感を、当館所蔵資料から紹介します。夏の企画展「若山牧水展」は、いわき市・延岡市兄弟都市締結15周年記念企画展として、延岡市などの協力を得て開催するものです。現在も愛誦され、多くの人々を惹き付けている歌人・若山牧水の延岡時代を中心に、その魅力を広く紹介します。秋の「坂本遼展」では、現在の兵庫県加東市に生まれた詩人・坂本遼の唯一の詩集『たんぽぽ』を中心とした作品世界とともに、草野心平やいわき市ゆかりの詩人・猪狩満直らとの交友を紹介します。

催しは、「文学散歩」「詩作講座」「サマーナイトの催し」「絵本の読み聞かせ」、ボランティアとの連携事業「居酒屋 火の車 食体験」などを継続します。

また、緊急雇用創出事業として、「文学資料のデータベース作成事業」を行います。

草野心平生家では、心平誕生日の市民朗読会、ワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」、子どもじゃんがら念仏踊り、心平忌・心平を語る会、天平の集いを行います。また、来館者に親切・丁寧な案内に努め、親しまれる運営を進めてまいります。

エ いわき市暮らしの伝承郷

企画展は7～8月にかけて「磐城平城下の町」と題し、特に幕末に焦点を合わせ、江戸時代の絵図類や文書及び発掘調査で出土した遺物などを展示します。9～10月には「高橋孝太郎作品展」を開催します。高橋氏が描く伝承

郷の古民家や東日本各地の民家を水彩画で楽しめます。2～3月には「収蔵品展」を開催します。本展では、当館が調査し保管してある民俗資料を展示します。民俗資料の展示を通して、昔の暮らしを再現。身近に残る民俗資料に着目し、文化財としての啓発を図ります。関連行事として「展示解説」を開催します。

講座は、石井克生氏を講師に迎え、民俗学講座として「いわきの民話」を5回にわたり開催し、館長担当の「暮らしの木曜講座」として江戸時代の村を知る史料から庶民の暮らしについて18回開催します。

体験事業は、技術の伝承や伝統に親しむための体験学習を、四季折々の特色や年中行事的な要素も織り交ぜながら数多く開催します。「キッズ民話語りの会」は6月に開催し、それに向けて第19期語り部教室の受講生を募ります。また、現代社会では見られなくなった年中行事を再現する「伝承郷行事」もこれまで以上に内容と広報の充実を図ってまいります。

当館のメイン展示でもある、古民家を含めた園内管理では、清掃から庭木の剪定、田畑耕作はもとより、里山づくりなど昔の暮らしそのものの復元と伝承をめざし、花木を育成するなど来館者に親しみの持てる空間の提供に努めます。

ボランティア育成事業は、ボランティアの資質向上のため、移築民家旧所在地または市外の古民家移築施設の見学を実施します。

企画展示室の使用有料化4年目に対応して、利用者にとってできるだけ使い勝手の良いよう相互理解を図り、スムーズな管理・運営に努めてまいります。

事業全体に関しての市民への広報については、ホームページの充実やメディアへの情報提供の拡充を行い、周知の向上を図ってまいります。

また、緊急雇用創出事業として、「暮らしの伝承郷における農村風景復元・伝承事業」を行います。

オ いわき市生涯学習プラザ

施設の復旧工事が完了し、震災前の状況に復しての新たなスタートとなる年です。フルオープンを待ち望んでいた各種利用団体やサークルに従前同様の活動の場を提供するとともに、事業面においても多様化する市民の生涯学習意欲に応えて参りたいと考えます。

特に、サークル企画事業として、市内の小・中学校の「総合的な学習の時間」の中で児童・生徒がサークル活動に参加しながら異世代交流の場ともなる「サークル企画学校体験講座」や、一般市民を対象としてサークルが運営実施する「サークル企画一般体験講座」等は定着がみられることから、引き続きサークルの協力を得ながら各種プログラムを充実させたいと考えます。

また、ボランティア活用事業として、好評を博している「紙芝居・絵本の読み聞かせ」や、多くの市民の参加を得ている「ITリーダー企画講座」を開催します。

さらに、共催事業として、震災本年は開催を見送った(社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「ふだん着のお茶会」、いわき華道連合会との「諸流いけばな展」を開催します。また、公民館との連携講座「いわき再発見講座」を開催し、地域の特色あるプログラムを提供して参ります。

このように、本年度はフルオープンにともない、当プラザでの活動が休止状態であった各種団体・サークル及びボランティアとの連携を深めながら、協働運営事業を再開・拡充するとともに、主催講座においても約25講座をさまざまな視点から積極的に開催します。さらに、いわきヒューマンカレッジ(市民大学)や生涯学習フェスティバルなど全市的事業を通して、更なる生涯学習の推進に努めて参ります。

また、緊急雇用創出事業「いわきまなびあいバンク普及活用事業」では、「IT相談会」をはじめ登録ボランティアの活用を図るとともに、市民の生涯学習活動を随時支援して参ります。

カ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき海浜自然の家は、心身ともに健全な青少年の育成と生涯学習の振興のため、引き続き、本館とつどいの広場を中心に、施設の整備と運営方法の改善に努め、利用者の自主・自立的な活動を支援してまいります。

そのためには、利用者の事故防止や安全管理はもとより、多様なニーズや目的に応じた事業の充実を図り、効率的で柔軟な管理運営を行ってまいります。特に、被災により中止している海岸での諸活動に代わる活動プログラムの開発や他の教育文化施設との連携、ボランティアの養成等に努めてまいります。

また、春と秋には、いわき海浜自然の家オープンデーなどの利用促進事業、夏と秋には、心に翼・ふれあいキャンプなどの啓発事業、冬には、県内自然の家との協力事業として、福島の冬！ウィンターフェスティバルなどを開催してまいります。

職員の知識と技能を生かし、県教育委員会と密接に連携を図り、健全な施設の管理運営と県民に親しまれる施設づくりに努めてまいります。

3 出版事業

(1) 基本方針

重要遺跡の調査報告書の増刷を行うとともに、既刊の調査報告書などの出版図書については、ホームページでの案内及び学会や研究会などへ出向くなど、一層販売の促進にあたり、在庫本の一掃に努めてまいります。

(2) 事業計画

文化財部門では、「古川遺跡」・「大場D遺跡」・「餓鬼堂横穴群」・「神力前B遺跡」などの重要遺跡の調査報告書および既刊調査報告書の頒布をします。

4 普及活用事業

(1) 基本方針

当財団の職員が有する専門的な知識を、公民館などへ有償提供し、事業団の専門性を市民の方々にアピールするとともに、収益を図ってまいります。

(2) 事業計画

事務局においては、「いわきの歴史」や「地域の歴史」などの講座及び勾玉づくりやハニワづくりなどの体験、各施設においては、各施設の独自性・専門性を踏まえたメニューを作成し、積極的に事業を展開してまいります。

5 研 修

(1) 基本方針

利用者への「安全・安心の確保と提供」、「満足いただけるサービスの提供」、「質の高い専門性の提供」などの一層の向上を図るため、関係資格の取得や研修への参加を積極的に推進してまいります。

(2) 事業計画

「安全・安心の確保と提供」のため、安全講習会へ積極的に参加するとともに、安全資格などの取得に努めてまいります。「満足いただけるサービスの提供」のため、各種研修を開催するとともに参加し関係資格を取得するなど、接遇の向上に努めてまいります。「質の高い専門性の提供」のため、学会・セミナー・シ

ンポジウムなどへ参加を推進し、職員個々の専門性を高めてまいります。

6 啓発広報事業

(1) 基本方針

地域に出向いての企画展などの開催を通して、文化財保護思想の啓発および事業団の専門性を市民の方々にアピールしてまいります。また、文化財・施設の両部門ともに、多くの情報を市民のみなさまに提供してまいります。

(2) 事業計画

学校や公民館などで「地域の指定文化財展」を開催します。文化財部門においては、発掘調査で得られた成果については、現地での説明会や考古資料館での「発掘速報展」で発表してまいります。

施設部門においては、それぞれの施設の特徴や独自性を多くの市民の方に知っていただくため、ホームページ内容の充実を図るとともに更新回数増に努めてまいります。

7 職員に関する事項

平成24年3月31日現在

(1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区 分	事務局長	事務局次長 専門研究員	係 長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主 事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事 務 局	1(1)	2(1)	-	-	-	-	-	-	3(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	-	1	4	6
調査第一係	-	1	1	1	-	1	2	-	6
調査第二係	-	-	(1)	1	-	-	-	25	26(1)
計	1(1)	3(1)	2(1)	2	-	1	3	29	41(3)

(2) 施 設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区 分	館 長 所 長 副館長	次 長 副 館 長 主 任 主 査 専 門 学 芸 員 専 門 指 導 員	係 長 主任研究員 主任学芸員	主 査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任	主 事 学 芸 員 指 導 員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	1	-	-	-	-	-	1	3
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	-	-	1	1(4)
文 学 館	2	-	-	2	-	-	-	3	7
伝 承 郷	1	1	-	2	-	-	1	8	13
生涯学習 プラザ	1	-	-	2	-	1	1	6	11
いわき海浜 自然の家	(1)	2	-	-	-	2	4	5	13(1)
計	5(2)	4	(2)	6(1)	-	3	6	24	48(5)

合 計	6(3)	7(1)	2(3)	8(1)	-	4	9	53	89(8)
-----	------	------	------	------	---	---	---	----	-------

収 支 予 算 書

平成24年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算について

平成24年度 財団法人いわき市教育文化事業団収支予算
(総 括 表)

(単位千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
< 事業活動収支の部 >			
事業活動収入			
1 基本財産運用収入	40	140	100
2 事業収入	699,151	483,941	215,210
3 寄付金収入	1	1	0
4 雑収入	1,045	1,065	20
事業活動収入計(ア)	700,237	485,147	215,090
事業活動支出			
1 事業費支出	663,073	460,548	202,525
2 管理費支出	30,004	22,641	7,363
事業活動支出計(イ)	693,077	483,189	209,888
事業活動収支差額(ア-イ=ウ)	7,160	1,958	5,202
< 投資活動収支の部 >			
投資活動収入			
投資活動収入計(エ)	0	0	0
投資活動支出			
1 固定資産取得支出	500	410	90
投資活動支出計(オ)	500	410	90
投資活動収支差額(エ-オ=カ)	500	410	90
< 財務活動収支の部 >			
財務活動収入			
財務活動収入計(キ)	0	0	0
財務活動支出			
財務活動支出計(ク)	0	0	0
財務活動収支差額(キ-ク=ケ)	0	0	0
< 予備費の部 >			
予備費			
1 予備費 (コ)	3,000	300	2,700
当期収支差額(ウ+カ+ケ-コ=サ)	3,660	1,248	2,412
前期繰越収支差額(シ)	65,435	64,187	1,248
次期繰越収支差額(サ+シ=ス)	69,095	65,435	3,660